

は ト ッ テ ル カ

カルテットとは 「月刊クラシック」 4月-2001.04.00

中嶋嶺雄

◎東京外国語大学長

「ずばり、弦楽四重奏の魅力をお教えしてください。」

私の場合は、演奏者の個性が作曲家と直接つながっているところですね。弦楽四重奏はそれぞれの楽器の奏者がみんな独立していて、一人ひとりがそれぞれのパートを完全に自己責任で弾きます。その上で、四人の、しかも異なった音域の楽器が、作曲家自身の発想なり、哲学、音楽性あるいは楽しさというものを表現していかなければならない。その意味では、すごく個人的です。奏者相互間の緊張感もありますし、そこに室内楽の醍醐味、とくにカルテットの特徴があると思います。弦楽四重奏というのは、ある意味で音楽の中で達成度が高いといつか、最高の地点にあるのではないかという気がします。

「お勧めの作品には何がありますか。」

ベートーヴェンやブラームスの作品が芸術性という点ではやはり最高だと思えます。とくにベートーヴェンの第十番「ハーブ」、第十一番「セリオーソ」などは素晴らしいですね。また、楽しさという点ではモーツァルトじゃないでしょうか。ベートーヴェンのような音楽性の極みにおいてどう、こういふより、聴く楽しさ、メ

ロディーの展開する心地よさというものが先に立ちますね。それからハイドンも、カルテットという点では見逃せない。例えば今、春になってヒバリの声が開いてきます。第六十七番の「ひばり」の技術的に速いテンポで進む第四章は難しいわけですが、第一楽章はいかにもヒバリがさえずっているようなメロディーが出てきて楽しいですね。それから第十七番は「ハイドンのセレナーデ」といわれるほど、セレナーデのところが非常に有名なカルテットですが、これなんかはアンサンブルとしてテンポも非常に快適だし、いかにもハイドンらしいと思います。

「個人的に大好きな曲というところはどうでしょう。」

好きな曲というと、ドヴォルザークの「アメリカ」ですね。ドヴォルザークというと新世界交響曲が知られているわけですが、彼はアメリカに行つて、アメリカを発見し、ニューヨークに身を置いて、黒人のメロディーなんかも取り入れています。いかにドヴォルザークらしいボヘミアン・スタイルの曲想の中に、ものすごくオーケストレーションがあり、技術的にもかなり難しいのですが、私にも弾けないほどではありません。そういう意味でも、ダイナミックであ

り、エキゾチック。聴いていると、人類の至高というか最も高い極みに芸術が存在すると感じますね。



「演奏も良くされるんですね。」

実は、私にとつての一番の楽しみは、我が家でカルテットをやっていることなんです。うちの子供たちがヴァイオリンとかチェロとかヴィオラとかを色々やっています。決してうまくないし、子供たちも成長して家を離れたり海外に行つていたりするので最近はなかなかやってくれず、一年に一度集まれるかどうかなんです。子供らにとつてみると、実は親が強制するんで、抵抗されたりするんです。ただ、よくしたもので、上の三人が結婚した時に、結婚式のパーティーでみんなでアイネ・クライネ・ナハトムジークを三回ともやっただけですよ。下手でもそういう楽しみもあるのではないですか。それがある意味では、私にとつての弦楽四重奏の醍醐味だと思いますね。



東京クワルテット

1969年結成でメンバー交代を経ながら現在は元プロディン四重奏団で第1ヴァイオリンを務めていたミハイル・コベルマン、池田彌衛(第2ヴァイオリン)、櫻村和英(ヴィオラ)、原田禎夫(チェロ)の4人で活動している。使用楽器は日本音楽財団から貸与されたストラディヴァリウスのセットである。

©Akira KINOSHITA

あなたの好きな
弦楽四重奏曲3曲
教えてください。

尾高忠明 (指揮)

- ラヴェル:弦楽四重奏曲へ長調
- エルガー:弦楽四重奏曲第2番
- ボロディン:弦楽四重奏曲第1番

榎本大進 (ヴァイオリン)

- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第8番「ラズモフスキー第2番」
- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第9番「ラズモフスキー第3番」
- ショスタコーヴィッチ:弦楽四重奏曲第8番

加藤知子 (ヴァイオリン)

- ラヴェル:弦楽四重奏曲へ長調
- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第14番
- シューベルト:弦楽四重奏曲第14番「死と乙女」

川本嘉子 (ヴァイオリン)

- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第14番
- ヤナーチェク:弦楽四重奏曲第2番「ないしょの手紙」
- シューベルト:弦楽四重奏曲第13番「ロザムンデ」

木野雅之 (ヴァイオリン)

- バガニニー:弦楽四重奏曲第5番
- ドビュッシー:弦楽四重奏曲ト短調
- ラヴェル:弦楽四重奏曲へ長調

工藤重典 (フルート)

- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第7番「ラズモフスキー第1番」
- ドヴォルザーク:弦楽四重奏曲第12番「アメリカ」
- ラヴェル:弦楽四重奏曲へ長調

小林美恵 (ヴァイオリン)

- バルトーク:弦楽四重奏曲第6番
- ラヴェル:弦楽四重奏曲へ長調
- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第13番「大フーガ」付き

小山実稚恵 (ピアノ)

- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第7番「ラズモフスキー第1番」
- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第16番
- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第13番

斎藤雅広 (ピアノ)

- ラヴェル:弦楽四重奏曲へ長調
- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第9番「ラズモフスキー第3番」
- モーツァルト:弦楽四重奏曲第14番

澤和樹 (ヴァイオリン)

- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第14番
- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第16番
- モーツァルト:弦楽四重奏曲第19番「不協和音」

有田正広 (フルート)

- モーツァルト:弦楽四重奏曲第15番
- モーツァルト:弦楽四重奏曲第19番「不協和音」
- シューベルト:弦楽四重奏曲第14番「死と乙女」

池松宏 (コントラバス)

- シューベルト:弦楽四重奏曲第14番「死と乙女」
- ラヴェル:弦楽四重奏曲へ長調
- ショスタコーヴィッチ:弦楽四重奏曲第8番

伊藤恵 (ピアノ)

- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第15番
- フォーレ:弦楽四重奏曲ホ短調
- シューマン:弦楽四重奏曲第1番

岩崎洗 (チェロ)

- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第15番
- バルトーク:弦楽四重奏曲第4番
- リゲティ:弦楽四重奏曲第1番「夜の変容」

岩崎淑 (ピアノ)

- ドヴォルザーク:弦楽四重奏曲第12番「アメリカ」
- ラヴェル:弦楽四重奏曲へ長調
- 高田三郎:弦楽四重奏のための組曲「マリオネット」

内田光子 (ピアノ)

- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第14番
- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第15番
- バルトーク:弦楽四重奏曲第5番

漆原啓子 (ヴァイオリン)

- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第13番
- バルトーク:弦楽四重奏曲第4番
- シューベルト:弦楽四重奏曲第15番

漆原朝子 (ヴァイオリン)

- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第14番
- シューベルト:弦楽四重奏曲第14番「死と乙女」
- ドビュッシー:弦楽四重奏曲ト短調

江藤俊哉 (ヴァイオリン)

- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第14番
- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第15番
- ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第16番

大町陽一郎 (指揮)

- シューベルト:弦楽四重奏曲第14番「死と乙女」
- ハイドン:弦楽四重奏曲第77番「皇帝」
- ドヴォルザーク:弦楽四重奏曲第12番「アメリカ」

演奏家
50
人に
聞きました。